

平成24年7月22日
今週のベストショット



青松園B ブルーマーリンズ 対 奈多フェニックス戦

見事ノーヒットノーランを達成したフェニックス今林勇太ー実延新伍バッテリー

写真：塩浜ジャガーズ 松下照夫

青松園A ～三苦フレンズ 今季初勝利！～

三苦フレンズ (1勝6敗1分) 3 3 5 0 0 1 1 生野(拓)、井上〇ー佐藤

レッドサンデーズ (2勝7敗0分) 2 1 2 2 0 7 土田●、嶋村ー三船

HR：場崎(三苦フ) 3BH：土田(レッド) 2BH：生野(拓) × 2 (三苦フ) 宮口(レッド)

この試合はピッチャーの替え時が鍵を握る試合になった。まずレッド土田投手だが三回まで投げ四球11、被安打7、被本塁打1の11失点で交代。四、五回を投げた嶋村投手は四球1、被安打1、無失点、打者8人でテンポの良さを感じた。次にフレンズ先発生野(拓)投手だが四球4、死球1、2失点で初回のアウトを1つも獲れず無死満塁、1点リードの状態に井上投手に交代する。交代後このピンチをフレンズはホームゲッツー、センターフライで無失点に抑え、ここで試合の流れが完全にフレンズに向いた。井上投手は四球2、被安打7、5失点の内容だったが、場先選手の3ランなどで、レッド嶋村投手に変わるまでに大量の援護点を得、ピッチングに余裕を感じた。そしてフレンズがそのまま逃げ切って、今シーズン初勝利した。が、レッドの嶋村投手の登板があと1回早ければこの試合の勝利チームは変わっていたのかも？

(記事：新町ウインズ 桐島司、写真：早田主大)



試合前あいさつ。さあ、波に乗るのはどちらか？



初回無死満塁からナイスリリーフ 井上投手。



5-2-3 ダブルプレーで初回のピンチを防ぐ。



三回表、レッドを突き放す本塁打を放ったフレンズ場崎選手。



レッドのセンター川原選手、背走しながらキャッチ。



ナイスガッツ、フレンズ田中二塁手。

雁レクE

三友クラブ (2勝6敗0分) 0 1 0 1 0 0 2 足達●ー谷崎

ソルトベイスターズ (3勝5敗1分) 0 1 2 0 0 X 3 中村(耕)○ー酒井

HR: 中村(喜)(ソルト) 3BH: 田中(広)(ソルト) 2BH: 松尾、谷崎(三友ク)、森(哲)(ソルト)

梅雨明けを感じさせる強い日差しの中、初回は両チーム共に先頭打者を出すのが両エースが後続をしっかりと打ち取り共に無得点。二回表三友クラブは、一死から7番小島選手がヒットで出塁すると四球とパスボールで進塁し、9番足達選手のショートゴロの間に本塁に生還、1点を先制する。ソルトはその裏一死から6番森(哲)選手が死球で出塁し二死ながら三塁まで進塁すると投補間の一瞬の隙をつき本盗を決め、すぐさま同点に追いつく。三回裏、勢いに乗るソルトは先頭の9番中村(喜)選手がレフトヘソロHRを放ち勝ち越しに成功。更に4番田中(広)選手のタイムリーもありこの回2点を挙げる。何とか追いつきたい三友クラブは四回表、ヒットとエラー等で1点を返し、その後も五、六回とランナーを出すのがソルトの好守に阻まれ無得点。追撃は及ばず両チーム一進一退の好ゲームは3対2でソルトベイスターズの勝利となった。(記事: 三球会 小倉圭太、写真: 中村元)



三回裏、ソルト中村(喜)選手の放った打球はレフトの頭上を越える。



三回裏、ベンチで祝福を受ける中村(喜)選手。



三回表、4番田中(広)選手にもタイムリー三塁打が飛び出す！



四回表、三友クラブは相手エラーで1点差に詰め寄るが・・・



五回表、同点のランナーもソルトの好守に阻まれ本塁憤死！



粘りのピッチングで勝ち投手となったソルト中村(耕)投手。

奈多グラウンド ～昨年覇者奈多サンデーズ敗れる～

奈多サンデーズ（6勝1敗1分）00010 1 塚本●、江口ー荒口

新町パイレーツ（6勝2敗0分）0032X 5 吉田○ー桐島

2BH：田中(俊)（奈多サ）白岩（新町パ）

序盤、両投手の好投が続き一進一退の攻防がみられた。試合が動いたのは三回裏、新町パイレーツは先頭打者を四球で出すと送りバントにて得点圏に進め、クリーンアップの三連打にて3点を先制。奈多サンデーズも四回表、3、4番の連打にて1点を返すも後続が続かず。四回裏、サンデーズは代わった江口投手の制球が定まらず、パイレーツに追加点を与えてしまう。パイレーツの打線がサンデーズの打線を上回る攻撃が見られ、パイレーツにとってうれしい一勝となった。（記事、写真：奈多クラブ 吉田貴史）



春の藤本杯に続き、奈多サンデーズ打線を抑え込んだパイレーツ吉田投手。



一方奈多サンデーズは春の大会では登板していない塚本投手で勝利を狙うも・・・



初回、サンデーズ2番野田選手がライトヘ二塁打を放つが無得点。



三回裏、パイレーツ3番白岩選手が先制の二塁打を放つ。



三回裏、白岩選手のタイムリーで生還する牟田選手。



続く4番桐島選手のタイムリーで決勝のホームを踏む白岩選手。



駄目押し5点目のホームイン、パイレーツ大前選手。



大前選手を迎え入れて大喜びのパイレーツベンチ。

青松園B ～奈多フェニックス今林勇太選手躍動！ノーヒットノーラン&3HR～

ブルーマーリンズ (0勝8敗0分) 00000 0 林●一綱脇

奈多フェニックス (8勝0敗0分) 5235X 15 今林勇太○一実延新伍

HR: 今林勇太X3、実延彰洋 (奈多フ) 3BH: 実延彰洋X2 (奈多フ)

2BH: 今林英二、実延新伍 (奈多フ)

梅雨明けで早朝にもかかわらず汗ばむ陽気の中、初回からフェニックス打線が爆発した。先頭打者が出塁すると、いきなり2番今林勇太選手が先制本塁打、以降6番今林文彦選手まで連続長打を放ち、打者10人で5点を先制する。続く二回、またしても今林勇太選手が本塁打を放つと、三回にも3番実延彰洋選手が本塁打を放ち、その勢いが止まらない。四回には今林勇太選手がこの日3本目となる満塁本塁打を放ち、手のつけられない猛打を披露した。一方ブルーマーリンズも、球威十分の今林勇太選手に喰らいつくが、球威に加え高低の投げわけに手が出ず、五回11三振でノーヒットノーランを喫してしまった。7月22日はフェニックスの快勝に終わったが、満塁本塁打を含む3本塁打とノーヒットを達成した今林勇太選手が特に輝いた日となった。

(記事：塩浜ジャガーズ 高嶺信彦、写真：松下照夫)



久しぶりの先発でノーヒットを達成した、今林勇太投手。



今林勇太選手はこの試合で3本塁打もマークした。



猛打フェニックスの4番、今林英二選手。



気迫漲るフェニックス5番打者、実延新伍選手。



一方的な展開にはなったが、健闘を称えあう両チーム。

第15週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

第15週は話題目白押しでした。

まずは、何と言っても奈多フェニックス今林勇太選手ノーヒットノーラン達成&1試合3HRでしょう！

＼(^o^)／オメデトウゴザイマス！

これで納会では2つの表彰ですね。

青松園Bのブルーマーリンズ対奈多フェニックス戦は初回から2番今林勇太選手の2ランで先制すると、恐怖のフェニックス打線の豪打爆発で0-15でフェニックスが勝ちました。今林勇太選手は続く二回裏の先頭でソロを放ち、四回裏は満塁HRと、あと3ランが出ていればサイクルHRでした。実は三回裏の第三打席はランナー2人がいたのですが・・・その打席も打点を挙げたので、4打数3安打3HR8打点です。スゴッ！これでHR、打点王を狙える位置に来ましたね。投げても2四球のみと、堂々のノーヒットノーラン達成でした。

青松園Aの三苦フレンズ対レッドサンデーズ戦は四球のランナーをフレンズ3番生野選手と4番佐藤選手で返すというパターンでリードすると、三回表には四球のランナー2人を置いて1番場先選手の3ランが飛び出しました。レッドも毎回小刻みに得点するものの、序盤で失った点が大きすぎ、11-7でフレンズが今季初勝利。一回からのロングリリーフとなったフレンズ井上投手の好投が光りましたね。

雁レクEの三友クラブ対ソルトベイスターズ戦は、エース鶴野投手を欠くソルトでしたが、中村耕一郎投手が三友打線の前に立ちはだかりました。三友クラブにソルトを上回る8本の安打を許しながら、2点に抑え、味方の反撃を待ちます。それにソルト打線も応え三回裏に9番中村喜一選手のソロHRと4番田中広孝選手の三塁打で逆転すると、一点差を最後まで守りきり2-3で勝利。

奈多グラウンドの奈多サンデーズ対新町パイレーツ戦は、サンデーズの攻撃を三者凡退に抑えた三回裏に試合が動きました。守備からリズムを作ったパイレーツがサンデーズのお株を奪う攻撃力で3点を先制。四回裏にもサンデーズ塚本投手から代った江口投手を捉え、春先の大会でサンデーズを打ち負かしたパイレーツ打線の健在ぶりを見せつけ1-5で勝利。パイレーツは打撃も好調ですが、その堅実な守備にも定評があります。試合前のシートノックなど他のチームも真似したほうがいいと思います。しかし、この試合に私は参加できなかったのが悔やまれます。パイレーツの三ヶ年計画の集大成は確実に身を結んでいますね。

これで、全勝のフェニックス、1敗のホーネッツ、1敗1分の奈多サンデーズ、1敗2分の三球会、ライナーズ、2敗のパイレーツとここまでが優勝圏内となりました。